



小野竹喬「奥の細道句抄絵 暑き日を海にいれたり最上川」1976年 京都国立近代美術館蔵

2018となみチューリップフェア特別展

畫小野竹喬と 下保昭

—— 奥の細道句抄絵と大作屏風 ——

2018 **4.20** 金 - **5.20** 日 10:00-18:00

(チューリップフェア期間4/20 土 ~ 5/5 日・祝 は8:30-17:30)

5/14 日 は設備点検のため休館します。

観覧料 = 大人(高校生以上)1,000(900)円 小人(小・中学生)300(200)円

※()内は20名以上の団体料金、小学生未満は無料です。

※チューリップフェア期間中(4/20~5/5)はフェア入場券でご覧いただけます。

※5/5(土・祝)こどもの日は小人無料です。

※障がい者の観覧は無料です。(介助者1名を含む)

主催=砺波市、公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団・砺波市美術館、一般社団法人砺波市観光協会
後援=となみ衛星通信テレビ、エフエムとなみ、となみ芸術文化友の会
協力=独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館、笠岡市立竹喬美術館

関連
催し

■講演会「日本画と俳句」

日時:5/13 日 午後2時~ 会場:2階市民ギャラリー(入場無料)

講師:西村和子(NHK全国俳句大会・毎日俳壇選者)

■ギャラリートーク

日時:5/19 日 午後2時~ 会場:1階企画展示室(要観覧券)

講師:上蘭四郎(笠岡市立竹喬美術館長)

TONAMI ART MUSEUM 〒939-1383 富山県砺波市高道145-1
砺波市美術館 (砺波チューリップ公園内)
TEL:0763-32-1001 FAX:0763-32-6361
<http://tonami-art-museum.jp>



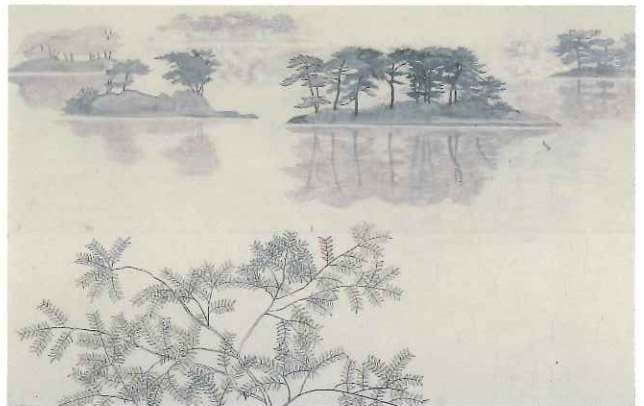
小野竹喬「奥の細道句抄絵 笠島はいづこさつきのぬかりみち」1976年
京都国立近代美術館蔵



小野竹喬「奥の細道句抄絵 象潟や雨に西施がねぶの花」1976年
京都国立近代美術館蔵



小野竹喬「笠島はいづこさつきのぬかりみち (奥の細道句抄絵 下絵)」1976年
笠岡市立竹喬美術館蔵



小野竹喬「象潟や雨に西施がねぶの花 (奥の細道句抄絵 下絵)」1976年
笠岡市立竹喬美術館蔵

小野竹喬(1889～1979)は岡山県笠岡市に生まれます。竹内栖鳳の画塾に入門しここで土田麦僊と知り合い親交を結びます。1909年に京都市立絵画専門学校開校にあたり麦僊と共に別科に入学し、西洋絵画の写実を大胆に取り込んだ風景画を得意としました。卒業後は文展を中心に作品発表し受賞を重ねます。1918年に文展の審査に不信を募らせ麦僊らと共に国画創作協会を結成します。1921年から22年にかけての渡欧後、画号を竹橋から竹喬に改めます。1928年に国画創作協会が解散した後は、官展に復帰し、帝国芸術院会員(現日本芸術院)となりました。戦後は、日展を中心に発表を行い、1976年に文化勲章を受賞します。竹喬の画風は、次第に主題の単純化と象徴化を進め伝統的な線描による表現に到達し詩情豊かな風景画を確立しました。

下保昭(1927～)は富山県砺波市に生まれます。西山翠嶂の青甲社に入塾・師事し1950年、《港が見える》で日展初入選します。その後、日展を中心に作品発表を行い、男性的で雄大な画風で精力的に活動しました。1988年に日展を退いてからは水墨画に新たな画境を示し、独自の山水図は自然の真髄に迫る表現で注目を集めます。

本展は、二人の円熟期に制作された作品から会場構成します。小野竹喬は、晩年に最大の情熱を傾けた傑作「奥の細道句抄絵」の本画全10点と残された下絵との並列展示を試みます。また、竹喬の娘婿であり、郷土を代表する画家である下保昭は、日本各地の雄大な景色を描いた大作屏風の展示を行い、両者の風景に寄せる精神性や美意識を明らかにするものです。



- ・ JR 北陸新幹線「新高岡駅」、あいの風とやま鉄道「高岡駅」より JR 城端線に乗り換え 20 分、「砺波駅」下車、徒歩 20 分
- ・ 北陸自動車道・砺波 I.C. から車で 5 分

5/19 国市民美術館の日は、砺波市民は観覧無料です。

TONAMI ART MUSEUM 砺波市美術館

〒939-1383 富山県砺波市高道145-1
(砺波チュリップ公園内)
TEL:0763-32-1001 FAX:0763-32-6361
<http://tonami-art-museum.jp>